回想法センター便り・５月号

平成２６年　４月３０日発行
発行　龍ケ崎市回想法センター
龍ケ崎市平台 5-9-7
電話・FAX　0297－65－4443
e-meil pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
ｈｐ　www16.ocn.ne.jp/~piakaiso

新緑の美しい季節が来ました

入院・在宅どちらが幸せ？

夕暮れ時。お年寄りたちがテレビを見たり、おしゃべりしたり、それぞれが思い思いに過ごしていた。台所では夕食を作っており、おいしい匂いが部屋の中に漂っていた。４年前、呉文化学園大の先生と一緒に伺った「きのこエスポアール病院」（岡山県)。一見介護施設のようだが、れっきとした精神病院。入院医療は、治療が終われば退院をするのだが、認知症を根本から治すことはできないので、どうしても在宅や施設に戻れないお年よりがいる。病院にいるほうが幸せなお年寄りがいるのも事実で、現状は、「困ったときの精神科」だ。そこには、認知症当事者の心を置き去りにしてきたことも事実ではなかろうか？。

認知症になっても住み慣れた環境で最後まで暮らせる社会の実現」が世界の潮流となり、国もようやく長期入院の是正の対策に乗り出した。多くの課題がある中で、精神科病院の役目は何か？この問題に目を向けていかないといけないと思う

住み慣れた環境がいいね

「認知症いやな言葉だけど避けて通れない」「認知症にだけはなりたくない」との声をよく聞きく。「どこも引き受けてくれない人を、精神科病院だけが引き受けてくれた。感謝している」と、家族や地域、施設などの事情が入院期間を左右していることも事実。

認知症は、症状であって病気ではない。認知症を理解し、受け止め、家族、地域が認知症と付き合うことも必要ではないか。福岡県久留米市のように「自由に徘徊できる町」を目指し、街がひとつになる取り組みが行われている。乗り越える課題も多いかと思うが、実現できたら認知症も怖くないだろう。

お便り１０月号でも紹介した、９１歳の男性が徘徊中に列車にはねられて亡くなり、ＪＲはダイヤに遅れが出たと家族を訴えていた裁判に、名古屋高裁は、当時８５歳の妻の監督責任を認めた。家族には重い判決。負いきれない責任を取らされるのなら閉じ込めるしかない。家族や施設が窮地に追い込まれないような仕組みが急務ではないか。

明日はわが身の問題だけに、考えさせられた。

問い合わせ先　龍ケ崎市回想法センター　担当　赤嶺　０８０－４２０９－５７０８

５月の回想おしゃべり

開催場所　歴史民族資料館
開催時間　１時３０分～１５時３０分
開催日　　１６日（金)、２０日（火）２４（土）田植え

５月のおしゃべりサロン

開催場所　市役所地下元職員食堂
開催時間　２時～４時
開催日　１２日（月）２６（月）